

日本脳炎

どんな病気？



日本脳炎は蚊（主にコガタアカイエカ）が媒介するウイルスでおこる病気です。夏から秋にかけて流行し、発熱すると高熱・頭痛・嘔吐・意識障害やけいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。症状が治まった後でも20～40%は死亡するといわれる恐ろしい感染症です。予防はワクチン接種を受けて免疫をつけることが最も効果的です。

ワクチンの接種対象

定期接種では、基礎免疫は生後6～90か月に接種しますが、標準的には3歳児に6日から28日までの間隔で2回、そして1年ほど間隔をあけ1回追加接種します。その後、標準的には9歳児に1回追加接種をします。このワクチンは、接種対象者に特例措置がありますので、詳しくは健康課母子保健係にお問い合わせください。